相談事例③
長期間の断続的不登校女子。
どのような機関がサポートしてくれるの？それぞれの役割は？

●対象児童生徒：　中学２年　女子

姉が小学校から不登校ということもあり、家でゲームやアニメを見て過ごす生活が居心地良く断続的な不登校状態になる。学習意欲も低く、その背景にはいくら学習してもなかなか定着しないもどかしさがある。また、気の合う友人がいないこともあり、学校への登校意欲がない。

●スクールカウンセラーの取り組みと児童の変化

5月 家庭・げんき担当者・担任・スクールカウンセラーでケース会議	○家での様子を母から聞き現状を把握する。また、通っていた教育相談で行われた発達の検査結果から本人の特徴を理解する。学校では登校状況を報告。 ○生徒の意思だけでは登校が継続しないため、それぞれの立場で登校を促す役割を決めた。教育相談に週１、学校の相談室登校を週１に設定し、お互い次の日程を確認し合う。母も声をかけカレンダーに記入し、視覚化。
6月 会議の内容を実施	○生活リズムの乱れから約束した時間に来れないこともあるが、教育相談で「次はいつ学校に行くの？」と確認することで本人にも「行かなくては」と認識させる。学校でも教育相談の予定を確認する。そのため、どちらかが切れて行きづらくても互いが繋げることで通うことが安定してきた。
2月 経過の確認と方向性を検討・実施	○週１の登校・通級が安定してきたので、再度話し合う。本人とスクールカウンセラーで目標を決め、正式通級に向けてげんきのチャレンジ学級へ通う回数を増やす。 ○高校進学に向けて、学習の補習や少人数での関わりを目標にチャレンジ学級へ通級する。学校とチャレンジ・家庭での連携の体制は継続させる。

●保護者のみなさま、学校の先生方へ

子どもが不登校になってしまった！家で押し出すだけでは限界があり、学校でもどうすればいいのかわからない…

そんな時は、スクールカウンセラーに相談してください。子どもの今の気持ちや特徴などを理解したうえで本人に合った方法で登校を促すサポートをします。また、学校復帰が難しいと判断した場合はそのほかの居場所を相談したうえで紹介することもできます。

家庭と学校だけでなく、地域の関係機関を適切に利用して子どもたちの成長を一緒にサポートしていきたいと思っています。